

**EXAMINATION | 令和9年度から変わる高校入試制度。「学校設定枠」とは？**



3月10日、新潟県教育委員会のホームページに令和9年度における「新潟県公立高等学校入学者選抜」の概要がアップされました。令和8年度まで実施されていた「特色化選抜」制度は終了し、令和9年度からは「学校設定枠」が新たな制度としてスタートします。

この「学校設定枠」とは、各学校（学科）が定めるアドミッション・ポリシー（入学者の受入方針）を踏まえて、各校の裁量で設定する募集枠です。希望する受験生は「一般枠」への出願に加えて、同一校（学科）の「学校設定枠」にも出願することができます。

「学校設定枠」の試験は、学力検査のほか面接、実技検査等により行われるため、「一般枠」と同様に学力検査が重要であることに変わりはありません。新潟市内の高校では、新潟中央、新潟江南、新潟西、新潟東、巻、新津、新潟工業、新潟商業などが実施を予定しています。

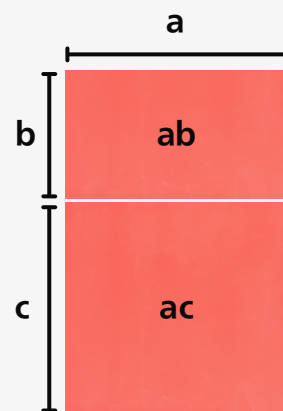
**ABILITY+ | 抽象と具体を行き来する。**

暖かな春を迎え、新潟市内でも多くの新1年生が誕生しました。特に小学校から中学校へ進学しての数か月は、環境の変化と学習内容の難化でつまづきを起こしやすい時期と言われています。このいわゆる「中1ギャップ」は、数学という教科にも存在し、これまで具体的な場면을想像しながら理解の獲得を図っていたものが、文字や数字などの「記号」の世界だけで数・図形を理解することが多くなり、一気に抽象化が進みます。

このギャップにより、「数学が分からない。」「数学が苦手だ。」と後ろ向きになってしまうお子さんが多いのです。

しかし、本来的に数学とは具体と抽象の世界を行き来すべき学習であると思っています。例えば、中学1年生で学習する「分配法則」では、 $a(b+c) = ab+ac$ と計算するのですが、「この様に計算（展開）できるのはなぜなのか？」を考えてみましょう。ここで、抽象度が高い「数字・文字」という世界から、図形の世界へと具体化してみます。すると、右の図に示される長方形とその面積の関係は、確かに分配法則の計算が妥当であることを教えてくれています。

この様に、抽象度の高い学習を行うときには、現実の場面や図などに具体化すると理解を助けてくれることが多くあります。この様な力も「数学的な考え方」の1つであり、数学を学ぶ上でとても重要な思考方法となるのです。



**INFO | ついに令和8年度の「定期試験対策講座」始動！**

5月16日（土）、17日（日）の2日間にかけて、中学校の定期テスト〔前期〕に向けた「定期試験対策講座（数学）」を実施します。この講座、前回に開催した際にも大変に皆様からご好評をいただきました！

当塾の塾生であれば、どなたでも無料にてご受講いただけるこの講座。間もなく皆様へご案内できるかと思っておりますので、もう少々お待ちください！

〔講座の内容〕（予定）

- 中学1年生：正負の数
- 中学2年生：立体の体積・表面積、データの活用、式の計算
- 中学3年生：場合の数・確率、データの活用、式の展開

